



令和8年
8.9 月

学校だより

「自立と感謝」

～心ゆたかに かしく たくましく～

さいたま市立大砂土東小学校

TEL 048(684)8003

令和 8 年 8 月 26 日発行

「ありがとう」と言われる人に

校長 石川 顕一



▲ 新学期に向けた校内研修

秋風が感じられる頃となりましたが、まだまだ厳しい残暑が続いています。学校では引き続き熱中症対策に万全を期してまいります。保護者の皆様には、お子さんの健康管理や緊急連絡先の確認等にご協力をお願いいたします。

先日、エレベーターを降りるときに、「開」ボタンを押して私が降りるのを待っていてくださる方に出会いました。「どうぞ」のひと言も添えてくださいました。相手の思いやりの心に触れ、温かな気持ちになりました。

このようなときに、相手にどのような言葉を返すのがよいのでしょうか。「すみません」なら恐縮する気持ちを、「ありがとう」なら感謝の気持ちを表すことになります。どちらが正しいということはありませんが、私は感謝の気持ちを伝えたいので、「ありがとう」と言うように努めています。

私は、人の心は日々の言葉によって育まれると考えています。だからこそ、子どもたちには感謝の気持ちを表す「ありがとう」を大切にしてほしいと願っています。お店で会計をしたときに店員さんへ「ありがとう」。バスを降りるときに運転手さんへ「ありがとう」。食事を用意してくれる人へ「ありがとう」。こうした言葉の積み重ねが、人への感謝の心を育てていくのではないのでしょうか。

そして、「ありがとう」とともに、相手を思いやる気持ちを表す「どうぞ」も大切にしたい言葉です。順番を譲るとき、困っている人に手を差し伸べるときなど、「どうぞ」のひと言には相手を大切に思う心が込められています。不思議なもので「どうぞ」が言える人には、自然と「ありがとう」と言われる機会も増えていくものです。

学校では「特別の教科 道徳」をはじめ様々な教育活動を通して、子どもたちの心が育まれています。とりわけ、日常の中で交わされる言葉はとても重要です。どのような言葉を使うかによって、子どもたちの心の育ちは大きく変わります。学校と家庭・地域が力を合わせ、「ありがとう」や「どうぞ」が自然に飛び交う温かな言語環境をつくっていきたいと思います。そして、子どもたちとともに、私たち大人も「ありがとう」と言える人、「ありがとう」と言われる人でありたいものです。

このたびの令和8年熊本地震ならびに令和8年8月千葉豪雨により、お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今なお不安な日々を過ごされている方々が多くいらっしゃいます。一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。